

果糖制限のすすめ

— 果糖はガンの悪性化を決定するかもしない —



佐藤 拓己 先生

SATOH Takumi

東京工科大学・応用生物学部・先端食品
アンチエイジングフード研究室 教授

- 1986年 東京大学農学部畜産医学科卒業
- 1988年 東京大学農学系研究科(獣医薬理学) 修了
- 1992年 京都大学大学院医学系研究科(分子医学) 修了
- 1994年 京都大学 大学院 博士(医学)
- 1995年 大阪大学タンパク質研究所研究員
- 1997年 大阪バイオサイエンス研究所研究員
- 2001年 岩手大学工学部応用化学生物工学科 准教授
- 2003-2004年 米国バーナム研究所神経科学(リプロトロン教授)留学
- 2014年 東京工科大学応用生物工学科 教授
- 2024年～ 早稲田大学エクステンションセンター・講師

果糖制限のすすめ

-制限すべきは果糖！糖質にあらず-

1970年からの30年間で、アメリカ人は巨大化した。

この契機は、脂肪悪玉論である。脂肪を減らすために、異性化糖の使用を拡大した。
アメリカ人の肥満化の原因の大半は果糖である可能性が高い。

異性化糖は果糖とブドウ糖の混合物である。果糖は脂肪肝や肥満を引き起こすばかりではなく、ガンの悪性化も誘導する。本講演では果糖の生理的な役割を概観し、果糖制限の必要性を述べる。

担当 金沢医科大学臨床病理学 山田 壮亮 教授

問合せ 金沢医科大学 学事部大学院課



kmug-pro@kanazawa-med.ac.jp

※次世代北信がんプロ科目単位申請対象セミナーです。